

凡例

- ・：意見等
- ⇒：回答等

丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会

令和6年度第1回意見交換会

議 事 概 要

事項	丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会 令和6年度第1回意見交換会	出席者	協議会委員ほか：13名 (国県関係部局・事務局等除く)
日時	令和6年10月16日(水)15:30~16:40	場所	柏原総合庁舎 職員福利センター1階 会議室
内容	1 開会 2 委員及び出席者紹介 3 議事 (1) 地域総合治水推進計画の総括について ① 取り組みの総括課題と対応、改訂の方向性 ② 平成26年~令和5年の取り組みについて (2) 地域総合治水推進計画改定(案)について ① 地域総合治水推進計画の改定のポイント ② 令和6年~令和15年の取り組みについて (3) 今後のスケジュール 4 閉会		
資料	【配付資料】 議事次第、出席者名簿、配席図 資料1-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の総括(取り組みの総括課題と対応、改訂の方向性) 資料1-2 平成26年~令和5年の丹波東部(竹田川流域圏)フォローアップシート 資料2-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の改定概要 資料2-2 令和6年~令和15年の丹波東部(竹田川流域圏)の主な取り組み 資料2-3 令和6年~令和15年の丹波東部(竹田川流域圏)次期計画の取組事業内容 資料3 今後のスケジュールについて 参考資料1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱及び公開要領 参考資料2 令和5年度第1回丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会 議事概要		

1 開会

丹波土木事務所所長補佐より開会のあいさつを行った。

2 委員及び出席者紹介

事務局より委員及び出席者の紹介を行った。

3 議事

- 1) 地域総合治水推進計画の総括について
 - ① 取り組みの総括課題と対応、改訂の方向性
 - ② 平成26年~令和5年の取り組みについて

事務局より、1) 地域総合治水推進計画の総括について資料1-1および資料1-2の説

凡例

・：意見等
⇒：回答等

明を行った。

2) 地域総合治水推進計画改定（案）について

- ① 地域総合治水推進計画の改定のポイント
- ② 令和6年～令和15年の取組みについて

事務局より、2) 地域総合治水推進計画改定（案）について資料2-1、2-2および2-3の説明を行った。

3) 今後のスケジュール

事務局より、今後のスケジュールについて資料3の説明を行った。

＜意見交換＞主な意見等

3. 議事

1) 地域総合治水推進計画の総括について

- ① 取り組みの総括課題と対応、改訂の方向性
- ② 平成26年～令和5年の取組みについて

2) 地域総合治水推進計画改定（案）について

- ① 地域総合治水推進計画の改定のポイント
- ② 令和6年～令和15年の取組みについて

（竹田川統合井堰の効果）

・竹田川の第4統合井堰の工事は完了していると認識しているが、井堰の統合によって、上流の春日地区の河川水位状況に影響があるのか。（丹波市自治会長会理事 久下）

⇒竹田川の第4統合井堰の整備は完了している。現在、第5統合井堰の用地測量を始めるところで、今年度中に用地買収に入る予定である。春日地区への影響については、多少はあると思うが、具体的な程度はシミュレーションしてみないとわからない状況である。

（丹波土木河川課長 小森）

（田んぼダムの啓発）

・丹波市内の田んぼダムの進捗状況について伺いたい。（丹波市自治会長会理事 久下）

⇒田んぼダムは県と市両方で、多面的機能支払交付金の活用等で啓発させていただいている。多面的機能支払交付金を活用されていない地域で田んぼダムに取り組む場合は、丹波市では市単独の補助金を活用することも可能であり、啓発に努めている。（丹波市農地整備課長 中谷）

（ため池の治水活用）

・ため池の水位を下げておくことは、大変効果があると考えており、箇所積み重ねが大事なので、この計画に掲載していただくことは非常にいいことだと思う。（丹波市自治会長会理事 久下）

⇒ため池については、この事業に取り組む以前から管理者の方で独自に取り組んでいただいている。このような中で、令和6年度から丹波市でも、水位低減の取組を最低1カ月

凡例

・：意見等

⇒：回答等

以上実施していただく水利施設管理強化事業による支援を進めている。詳細は丹波市農地整備課までご相談いただきたい。(丹波市農地整備課長 中谷)

(雨水貯留タンク助成)

- ・雨水貯留タンクはいろいろな箇所に設置したら良いと思うが、設置による効果はあるのか。また、丹波市では雨水貯留タンク助成制度を計画しているのか。(丹波市自治会長会理事 坂谷)

⇒貯留タンクの容量は200リットル1基分なので、突然の豪雨時に200リットル分が貯めることができる。貯める量は限られているが10軒、100軒であればそれだけ効果が上がり、総合的に効果が出ると考えている。(丹波土木所長補佐 乳原)

⇒雨水タンクについては、まずこういう設備であるということをPRするためにライフピア市島などに設置させていただいている。効果は小さいかもしれないが、例えば田んぼダムやため池の事前放流のように、いろいろな機能を活用する中の1つの手段として貯留タンクがある。最近では、開発によって農地の都市化が進んで、貯めるところがなくなって、内水浸水被害が発生しているところがある。このようなところでは、例えば集団で置いていただくことによって、今まで田んぼで貯められていたような貯留機能がいくらかは回復できると考えている。今のところは丹波市では助成制度はできておらず、今後検討していくところである。(丹波市河川整備課長 加賀山)

(記載内容)

- ・資料2-3次期計画の取組事業内容の公表にあたって、これまで右端の担当課の記載はなかったが、担当課を記載するのか。(丹波市河川整備課長 加賀山)

⇒担当課名を公表する予定はない。今回、担当課がわかるように右端に記載させていただいた。公表資料の作成については、あらかじめ関係団体と調整させていただく。(丹波土木所長補佐 乳原)

- ・竹田川河川整備計画の基本目標が昭和58年の台風10号の洪水とされているので、資料中に台風10号の被害状況等のデータの記載があった方がよいと考える。(丹波篠山市市民安全課副課長兼防災係長 安井)

⇒計画の本編か資料編に記載する予定である。(丹波土木所長補佐 乳原)

3) 今後のスケジュール

- ・以前に第1回協議会があったが、今回の会議はそれと別なのか。(丹波市自治会長会理事 久下)

⇒今回は意見交換会という位置付けで、現時点での方針を確認していただくことを目的としている。その上で、次の協議会で具体的な計画をお示ししたいと考えている。(丹波土木所長補佐 乳原)

(以 上)